

「2025年に児童数がピークに。保育所が多すぎる時代の到来か。」

厚生労働省が2021年5月26日に開催した検討会で、保育所の利用児童数が2025年にピークを迎える」との推計を公表しました。大きな社会問題とされている待機児童問題ですが、2025年には逆に保育所が過剰となる時代が到来する可能性ができました。

そこで、厚生労働省が公表した「保育所の利用児童数の今後の見込み」「保育所等関連状況取りまとめ」をもとに、保育所の利用児童数について見てみると、保育所の利用児童数は平成25年に約222万人、平成31年には約268万人となっており、約46万人増加しています。同期間の25～44歳の女性の就業率は、平成25年には70%程度の就業率が、平成31年には77.7%と大きく伸びています。当然のことですが、女性の就業率が高くなるにつれ、保育所の利用児童数は増加している現状がわかります。保育園の数が足りなくなれば、とうぜん待機児童が増えます。このことをふまえて考えると、令和7年には女性の就業率が82.0%になり、その後も緩やかに上昇していますので、利用児童数が増加すると予想されるはずです。女性の就業率は今後も伸びる見込みに対して、なぜ2025年（令和7年）に利用児童数がピークを迎えるのでしょうか。

端的に言うと、「女性就業率の上昇スピードよりも、少子化の速度が早いため」です。再度、前述の表を見てみますと、平成25年の0～5歳人口は634万人でしたが、平成31年には585万人でした。令和7年には530万人になると推計されており、少子化はますます加速していくことが見込まれています。また、足元の数字も見てみます。厚生労働省が2021年5月26日に公表した「妊娠届出数の状況」によると、令和2年1～12月の累計妊娠届出数は87万2227件であり、前年同期間の91万6590件と比較すると4.8%減で、過去最小を更新しました。新型コロナウイルスの感染拡大によって、出産・子育てへの不安から減少したと見られます。このようなことから、少子化は今後も進んでいくとみられます。

一方で、保育園数は充足する可能性が高くても、そこで働く保育士の労働環境が以前より厳しく、ハード面とソフト面のアンバランスが見えかかっている現状もあります。保育所などの施設は今後縮小するなどの対応をし、保育士が安心して長く働ける環境を整え、現場の保育士の数を増やせる施策も必要になる可能性があります。そして、保育業界全体で、子どもをのぞむ方が安心して子どもを出産し、育てられる社会にしていく援助をしていく必要があるのではないのでしょうか。

チャイルドグループ（株）幼保経営サービス コンサルティング部
チーフコンサルタント 帆足 正太郎

HP <https://www.ans.co.jp/youho/consult.html>

お問合せ <https://www.ans.co.jp/youho/postmail/index.html>